

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針 校訓「自主・創造・連帯」のもと、「翔べよ遙か狭山生」をキャッチフレーズとして、グローバルセンスとローカルセンスを兼ね備え、高いコミュニケーション能力（リーダーシップ・フォロワーシップ）や心優しき人間性を持って、地域社会においてパートナーシップを構築しけん引する「自主創造型グローバルリーダー」を育成する。 1 学力向上と第一志望の進路実現をめざし、「チームさやま」として教職員が一丸となって、頑張る生徒を応援し課題を抱える生徒を支える学校 2 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGsをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高める教育を実践する学校 3 学校行事やクラブ活動など協働的な活動を通して、自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高める学校

2 中期的目標

1 さらなる学力向上と進路保障 （1）「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに取り組む。 ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、「観点別学習評価」についてさらに研究を進める。「観点別学習評価」については、教科で単元計画・評価計画を策定し、ループリックなどを共有しながらチームで取り組む。 ※単元の逆向き設計により、本質的な問いを設定。①思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、②思考の見える化（学習支援ソフト・グループワーク）、思考のゆさぶり（発表・議論・パフォーマンス課題）など、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業へと転換をはかる、また、振り返りシートを共有するなど、学び方を協働的に学ぶことで「主体的に学びに向き合う力」を育成する。 イ リーディングGIGAハイスクール指定校として、1人1台端末や導入された最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ授業をめざす。一人一台端末活用のアクションプランを意識し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。 （2）第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。 ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。 イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。 ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミ（年間25回程度）を実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。 ※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」、「授業の工夫度」、「カリキュラム満足度」を令和7年度に3項目すべてにおいて88%以上をめざす。（「授業満足度 R2:78.7%、R3:82.0%、R4:89.3%」「授業の工夫度」（R2:83.6%、R3:89.3%、R4:94.3%）「カリキュラム満足度」（R2:81.2%、R3:86.6%、R4:87.7%） ※進路ガイダンス/進学講習の充実を令和7年度まで85%以上の維持・向上をめざす。（R2:87.9%、R3:88.9%、R4:94.4%） ※教職員向け学校教育自己診断「系統的な進路指導の実施」を令和7年度に80%以上に向上させる。（R2:53.8%、R3:72.3%、R4:68.1%） ※国公立・関関同立 合格者のべ70人以上をめざす。（R2:38人、R3:41人、R4:46人） 2 キャリア教育のための環境づくり （1）夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。 ア 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやSDGsをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する。 イ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要な3年間の系統だったプログラムを展開する。 ウ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。 ※生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育満足度」を令和7年まで85%以上の維持・向上をめざす。（R2:87.9%、R3:88.9%、R4:94.4%） （2）互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。 ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。 イ 1人1台端末を活用し、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。 ※生徒向け学校教育自己診断「人権（人権の尊重）」の肯定的評価を令和7年まで85%以上の維持・向上をめざす。（R2:80.8%、R3:86.7%、R4:92.2%） ※教職員向け自己診断「人権尊重に学校全体で取り組む」を令和7年度に80%以上に向上する。（R2:60.4%、R3:41.3%、R4:62.8%） （3）学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。 ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSWとも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。 特に、長引く感染症の影響が生徒やその家庭に与える影響やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。 イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高めるために、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。 ※生徒向け学校教育自己診断「学校生活満足度」令和7年度まで90%以上の維持・向上をめざす。（R2:84.9%、R3:90.5%、R4:92.9%） 同じく「相談体制満足度」を令和7年度まで70%以上の維持・向上をめざす。（R2:65.7%、R3:70.5%、R4:78.6%） 3 学校改革に向けての体制づくり （1）教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。 ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。 地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。

府立狭山高等学校

イ	コロナ禍での教職員の業務の増加をふまえ、さらなる「働き方改革」を推進し、校務の精査と教職員の負担軽減、職務の平準化を図る。超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。
(2)	学校に関わる団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との連携を強化し、広報・情報発信に取り組む。
ア	中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。
イ	「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。
	※教職員向け学校教育自己診断「学校運営の勤務充実度」を令和7年度に90%以上をめざす。(R2:85.5%、R3:85.2%、R4:95.7%)
	※保護者向け学校教育自己診断「学校満足度」を令和7年度まで90%以上の維持・向上をめざす。(R2:91.1%、R3:90.4%、R4:90.6%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 5 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見																												
【1 学習指導】 生徒向けの質問項目のうち「本校の先生は教え方に様々な工夫をしていると思いますか」が 92.4％（-1.9p）、「本校の授業はあなたの期待に応えることができていると思いますか」は 86.6％（-0.7p）と、昨年度と比べると若干減少してはいるが、依然、肯定的回答が高い傾向にある。また、「本校のカリキュラムはあなたの興味、関心、適性、進路に応じた選択ができるものだと思いますか」は 89.1％（+1.4p）で、過去5年で最高であった昨年度をさらに上回った。（※下記一覧表）。引き続き、主体的・対話的で深い学びをめざした授業力向上を進めていきたい。 ※質問項目に「1 とてもそう思う」「2 どちらかといえばそう思う」の合計比率（単位：％） <table><tr><td>肯定的回答の比率</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>授業の工夫</td><td>78.1</td><td>83.9</td><td>83.6</td><td>89.3</td><td>94.3</td><td>92.4</td></tr><tr><td>期待に応える授業</td><td>65.1</td><td>77.5</td><td>78.7</td><td>82.6</td><td>89.3</td><td>88.6</td></tr><tr><td>カリキュラム</td><td>72.3</td><td>77.7</td><td>81.2</td><td>86.6</td><td>87.7</td><td>89.1</td></tr></table> 【2 進路指導】 進路指導に関する質問で、「あなたは進路実現に向けて、真面目に学習に取り組んでいますか」の肯定的回答は 84.8％（-0.5p）であった。学年別では1年生 76.6％、2年生 84.9％、3年生 93.4％で、2、3年生の経年変化を見ると、2年生は 81.7％→84.9％、3年生は 70.8％→81.1％、→93.4％と推移している。3年生は入学時には進路実現に向けての意識はそれほど高くなかったが、学年が進むにつれて意識の上昇が顕著であった。引き続き意識を高めるための取り組みを実施していくことが肝要である。 【3 高校生活】 （1）高校生活の充実度及び教育相談体制 「あなたは、本校でいきいきと充実した生活ができていると思いますか」に対して 91.5％（-1.4p）の生徒が肯定的回答をした。「あなたは本校で、友好的な人間関係を築けていると思いますか」に対しては 95.9％（-0.3p）が肯定的な回答で、そのうち 64.1％が「強く思う」としている。例年 90％～95％で高位安定している。本年度は新型コロナウイルス感染症による制約が解け、普段の学校生活が戻りつつある中で、様々な経験から友人とのつながりを強く意識しているのかもしれない。 「担任の先生以外で保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいると思いますか」の問いには 78.6％（±0p）の肯定的回答であった。担任に対して何でも相談できる関係はおおむね築けていると感じているが、さらに担任以外の教員にも相談できる生徒が増加していることは喜ばしい。今後もさまざまな教員が 1 人の生徒に関われるような教育相談体制を構築する必要がある。（R1.68.1％→R2.65.7％→R3.70.5→R4.78.6） （2）学校行事 本年度は、クラスマッチや遠足をはじめとした学校行事は、ほぼコロナ前の形で実施することができた。体育祭では生徒がより主体的な活動を行うことができるような内容で実施し、保護者からの応援も復活する等コロナ禍前の盛り上がりとなり、生徒たちも満足するものとなった。修学旅行については2年生が1月下旬に北海道トマムへ3泊4日の日程で実施した。天候にも恵まれ、生徒にとって大阪では体験できない良い思い出となった。文化祭は、保護者は招待制で入場を許可し、地元の幼稚園児、小学生の訪問や、中学生とのクラブ交流も交えて盛大なものとなった。3年生は伝統的にクラス劇をしているが、どのクラスも工夫を凝らした劇を作り上げていた。2月の耐寒行事については、1年生が4年ぶりに岩湧山への耐寒登山を企画し実施する予定である。 （3）部活動 生徒向けの「あなたは、部活動に積極的に取り組んでいると思いますか」の質問に対して、74.6％（+0.1p）が肯定的回答であった。運動系・文化系合わせて約80％の加入率も含め勘案すると、コロナ禍で中断を経て、現在はそれ以前の水準に回復しつつあり、部活動での大会の参加も可能となって活躍できていることが大きい。対外試合や発表会を通じて多くの体験を積むことができること、高校時代の部活動でしか経験できない先輩、後輩、顧問の教員、外部指導者、他校の生徒などとの広い範囲の人間関係を学ぶことは、社会人になった時に大きな財産になるので、引き続き、加入率を	肯定的回答の比率	H30	R1	R2	R3	R4	R5	授業の工夫	78.1	83.9	83.6	89.3	94.3	92.4	期待に応える授業	65.1	77.5	78.7	82.6	89.3	88.6	カリキュラム	72.3	77.7	81.2	86.6	87.7	89.1	第1回（6月28日・本校会議室） ＊ 令和5年度学校経営計画について ・「自尊感情を育み、自主性を伸ばす」部分における生徒への評価等についてどのように図っていくのか。〔委員〕 →学校教育自己診断等をひとつの基準としてみている。委員の先生からのアドバイスも求めている。〔学校出席者〕 →生徒の帰属意識に表れると考えられる、遅刻数はどのような状況となっているか。〔委員〕 →増加傾向。学年ごとの特徴もなく遅刻数は変わらない。指導もおこなっているが、コロナ禍での無理をさせない習慣の影響が大きいと思われる。〔学校出席者〕 ・ヤングケアラーの実態について〔委員〕 →大阪府全体で調査しており、学校全体で取り組んでいる。本年度は教育相談支援委員会として定期的に活動している。〔学校出席者〕 ＊ スクールポリシーについて ・グローバルセンス、ローカルセンスを高めるための具体的な施策は何か。〔委員〕 →総合的な探究の時間において地域連携、国際教育を実践している。〔学校出席者〕 ＊ 将来の夢を描くという部分について →個人がどのように生きていくかを考えるためのカリキュラムの設定が必要。〔委員〕 →いまの就職はオールマイティを求められて大変だからこそ自分ができることを探すチャンスを持たせてほしい。〔委員〕 ＊ その他 ・L—GIGA について →ICT 機器を活用しなければ出来ない学びの創出を期待したい。〔委員〕 第2回（11月10日・本校会議室） 1 R6 選定教科書の報告 ・国語についての小説の扱いについてどのようになっているか。〔委員〕 →副読本で小説を集めたものを採用し活用している。〔学校出席者〕 2 スクールポリシーについて ・アドミッションポリシーは受験生が理解しやすいよう一部変更した。そのほかの箇所については昨年度より協議会で審議してもらい、採用した。〔学校出席者〕 ・受験の変化の中で英語を話せるというより英語で何を話すかということの重要性を感じている。〔委員〕 ・公民館でやさしい日本語という講義を実施（中学生向け）。実際に日本語の難しさを思い出した。〔委員〕 ・自分の考えを英語で伝えられることが大事である。〔委員〕 → 高校も観点別評価をおこなっている。毎回授業を生徒に記録をしているが、発問を変えてみると成果が上がってきている。理解できるように指導する工夫が必要ではないかと考えている。〔学校出席者〕 ・生徒への負担は増えていないか。〔委員〕 → 確認には時間がかかる。授業終わり5分で振り返りをさせている。当初はやりにくかったが一定ペースができている。〔学校出席者〕 ・府立学校にはがんばってほしい。地域でもっと活躍できる生徒を輩出してもらえたら ・特色を出し、競う中で魅力がなくなっている気がする。府立学校は中学校と協力して生徒を受け入れてきたはず。頑張ってもらいたい。〔委員〕 3 学校教育自己診断の実施と質問項目の確認について ・1人1台端末について活用しているのか。〔委員〕 →総合的な探究の時間をはじめとした発表等の授業では活用されている。課題は、アンケート等をする際に画面が後ろから見えて個人的な内容の入力には不適當な場合がある。〔学校出席者〕 ・昨年と比較して質問数が減っているのでは？〔委員〕 → 質問数は減っていない。〔学校出席者〕 → 国際交流について、先日韓国姉妹校とオンラインの交流をおこなった、国際交流部会が中心となっている。〔学校出席者〕 ・韓国の生徒とは英語で？〔委員〕 → 相手側は日本語を学んでいる生徒がいるので日本語中心で実施した。〔学校出席者〕 ・韓国が興味あるから交流生徒が増えているのか〔委員〕 → その傾向がある。韓国との交流している府立学校は3校と聞いている。入学前の事前調査では国際交流を目的にして入学した生徒も多い。〔学校出席者〕 ・狭山高校の姉妹校はどのようないきさつで？〔委員〕 → 韓国は十年以上前に韓国側から学校同士で提携、オーストラリアも学校同士の関係から提携した。〔学校出席者〕
肯定的回答の比率	H30	R1	R2	R3	R4	R5																							
授業の工夫	78.1	83.9	83.6	89.3	94.3	92.4																							
期待に応える授業	65.1	77.5	78.7	82.6	89.3	88.6																							
カリキュラム	72.3	77.7	81.2	86.6	87.7	89.1																							

府立狭山高等学校

上げることと生徒の積極的な取組みが促進するよう注力する。教員向けの「本校では生徒が充実感を得られるように部活動を運営していると思いますか」は 91.5%（－2.1p）であった。 （４）国際交流 ２つの姉妹校のうち、韓国の景福高校との対面交流は昨年度末の３月に再開された。景福高校とは、今年度もオンライン交流を 11 月に実施（本校生徒 28 名参加）し、1 人1 台端末を活用した MEET による交流を行った。緊張しながらも交流を楽しめたという感想が多かった。国際交流に興味をもっている生徒のニーズに応えられるような企画を広げ、来年度に予定されている景福高校による本校訪問に繋げる工夫をしていきたい。もう一つの姉妹校であるオーストラリアの Carey 校との交流は、コロナ禍後の旅行価格高騰の影響もあり、今年度は実施できていない。こちらも、来夏に訪問できるよう調整中である。「本校が行っている語学研修等の国際交流事業は魅力があると思いますか」は 79.8%（＋7.6p）であった。 （５）地域ボランティア 今年度も「狭山池まつり」が開催され、多くの文化部の参加、運動部の準備等の参加によって盛況となった。また、1 月の大阪狭山市公民館の新春イベントに本校文化部が参加するなど、連携の機会を増やすことができた。昨年度に大阪狭山市との連携協定を締結し、更なる交流が創出されつつある。本年度も総合（家庭）の授業での手話講座と保育所訪問、更に学校内での園児との交流が実現し、生徒にとっても良い経験となった。狭山池の清掃活動（クリーンアクション）は、部活動の生徒を中心に年間通じて約 400 人以上が参加している。今年度も生徒会役員等部活動以外の生徒の参加もあり、地域の実行委員の方に良い取組であるとの言葉をいただいた。「あなたは本校の地域清掃や地域連携活動でボランティア精神が高まったと思いますか」の質問に対する肯定的回答は 76.9%（＋1.5p）となり、コロナ禍での活動の制限緩和に伴い、生徒の意識の向上にもつながっている。大阪狭山市唯一の高等学校であり、今後とも生徒の自主的な地域連携を積極的に支援したい。	・1 人1 台端末による調べ学習、課題解決学習を進めてほしい。〔委員〕 ・小学校中学校ではほぼ毎日使っている。当たり前のようになっているので高校でも使っていけたら。〔委員〕 質疑応答 ・1 人1 台について、オンラインで学んでいくことに一定の評価がある。端末で自分で振り返りも可能、自学自習に使ってほしい。〔学校関係者〕 第 3 回（2 月 7 日・本校社会科教室） Ⅰ 自己診断報告 ・結果数値は改善傾向であると分析している〔学校関係者〕 ・教員のアンケート肯定的回答部分が多く、良い職場環境だと思う〔委員〕 ・2021 年からの肯定的な数値の向上が著しい理由は？〔委員〕 →生徒への 1 人1 台端末の配付と教員のデジタル教材の活用が大きく増えている。今年は全ての教室に GIGA ハイスクール構想事業で設置された電子黒板式プロジェクターが入り、教員の授業における創意工夫が高まっている。〔学校関係者〕 ・相談体制、行事に対する数値の伸長も目立っている〔委員〕 ・生徒アンケートの行事の項目についても良い傾向が表れている〔委員〕 ・進路決定の 2 極化が進む中でどのような施策をおこなっているのか？〔委員〕 →学年指導による進路指導ではなく、進路指導部が 3 年間計画を立てて、学年ごとの違いがでないように実践している。詳細なものを見やすくする進路メソッドを作成、教員への理解を深めた。どのような指導をすべきかを学年ごとの年間カレンダーを作成、共有し効果が表れていると考える。〔学校関係者〕 Ⅱ 令和 5 年度学校経営計画評価及び令和 6 年度学校経営計画提案 ・これからも地域連携と国際交流を柱にグローバルリーダー育成をめざす。〔学校関係者〕 ・国際交流の復活は喜ばしい。〔委員〕 →豪州交流は費用面で課題があり検討している。〔学校関係者〕 ・クリーンアクションの参加がすごい。〔委員〕 →毎月文化部を中心に参加している。12 月のクリスマス清掃は運動部も参加している。狭山池祭りもそのつながりで参加している。〔学校関係者〕 ・狭山高校が地域の人を呼び込む施策もしてほしい。〔委員〕
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4 年度値]	自己評価
一 更なる学力向上と進路保障	（１）「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに取り組む。	（１） ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、「観点別学習評価」についてさらに研究を進める。「観点別学習評価」については、教科で単元計画・評価計画を策定し、ルーブリックなどを共有しながらチームで取り組む。 イ リーディング GIGA ハイスクール指定校として、1 人1 台端末や導入された最新型プロジェクター等の ICT 機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ授業をめざす。一人一台端末活用のアクションプランを意識し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。 ・授業力向上委員会（教育課程委員会）を中心に授業見学週間、授業力向上研修などの授業力向上のシステムの取り組みを推進する。 リーディング GIGA ハイスクール推進委員会を立ち上げて研究校としての取り組みを推進する。	（１） ア、イ ・生徒向け学校自己診断結果の授業満足度86%以上 [89.3%] ・生徒向け学校自己診断結果の授業の工夫度 86%以上 [94.3%] ・授業アンケートの教員平均3.4以上 [3.43] ・研究校として、最新型プロジェクター等のICT機器を活用し、対話的に思考を深め、学び方を協働的に学ぶ公開研究授業を 2 回実施	（１） ア、イ ・授業満足度 88.6%（○） ・授業の工夫度 92.4%（◎） ・授業アンケート平均 3.40（○） ・リーディング GIGA ハイスクール公開授業を 2 回実施（○） 授業力向上システムを構築し、授業見学週間及びリーディング GIGA ハイスクール公開授業を実施。授業力向上につながった。
	（２）第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。	（２） ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3 年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。 イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベントにより「わかる・できる」を体感させる。 ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミ（年間 25 回程度）を実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。 スクール・ミッション、ポリシー策定をふまえて、進路実績向上をめざしたカリキュラム、補習講習、部活動・行事・広報を含めた方向性を拡大経営会議・運営委が示し、「チーム狭山」とし	（２） ア・生徒向け学校自己診断結果カリキュラム満足度 86%以上 [87.7%] ・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導 70% [66.6%] イ・生徒向け学校自己診断結果のキャリア教育満足度 85%以上維持 [94.4%] ウ・国公立大学・関関同立合格者：延べ 70 人以上 [46 人]	（２） ア・カリキュラム満足度（生徒）89.1%（○） ・系統的な進路指導（教職員）87.5%（◎） イ・キャリア教育満足度（生徒）93.9%（○） ウ・国公立大学・関関同立合格者：延べ 49 人（△） 生徒の進路希望に応じつつ、主体的な学びを引き出すカリキュラムマネジメント及び系統的な進路指

府立狭山高等学校

		て教育活動に取り組む。		導の開始により満足度は上がりつつある。受験指導として、国公立大学・難関私立大学ゼミを今年度より実施中。進路実績向上の改革を進める。
2 キャリア教育のための環境づくり	(1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。 (2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。 (3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。	(1) ア 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みや SDG s をテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する イ 将来の生き方を見据えた「進路」を決定するために必要なプログラムを準備する。 ウ 読書活動を推進する（ビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。 グローバルハイスクール委員会（国際交流部会・地域連携部会）が中心となって、国際交流及び地域連携の取り組みを推進する 総合探究委員会が、高大連携・地域連携による「総合的な探究学習」の3年間の計画を示し、グローバルリーダー育成のコアカリキュラムとして推進する。 (2) ア すべての生徒に、基本的人権や人権問題の認識を広め、高い人権意識を育てる。 イ 教職員研修を実施し、教職員の人権意識の向上と人権課題についての理解を深める。 (3) ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSW と連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、長引く感染症の影響が生徒やその家庭に与える影響やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートなどを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。 イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しい人間性を高めるために、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。 本年度より、教育相談委員会から教育相談支援委員会へと組織改編し、コア会議を定例開催とし、生徒情報の集約、背景理解に努め、適切な支援につなげる。	(1) アイ ・生徒向け学校自己診断結果の「国際交流の魅力」75% [72.2%] ・生徒向け学校自己診断結果の「ボランティア意識」75% [75.4%] ・狭山池クリーンアクションへの参加人数のべ500人 [約420人] ウ・ビブリオバトル本大会出場をめざす。[学年単位で実施、本大会には参加せず] (2) ア・生徒向け学校自己診断結果の人権意識 85%以上維持 [92.2%] ・教職員向け学校自己診断結果の人権への取り組み 70% [62.8%] (3) ア・生徒向け学校自己診断結果の教育相談満足度 70%以上維持 [78.6%] ・保護者向け学校自己診断結果の相談体制満足度 75%以上 [73.3%] イ 生徒向け学校自己診断結果「学校生活満足度」90%以上維持 [92.9%]	(1) ア 地域連携の多くの取り組みを実施した。国際交では、韓国姉妹校とは昨年度 3 月末に韓国スタディツアーを再開した。また、11 月にはオンラインによる交流を行った。 イ ・「国際交流の魅力」79.8% (◎) ・「ボランティア」76.9% (○) ・狭山池クリーンアクション参加人数のべ約 400 人 (△) ウ・ビブリオバトル本大会出場をめざす。[校内で学年ごとに実施。本年度は本大会には参加せず] (△) (2) ア・教員対象人権講演会を行い、学びの場となった人権意識 88.8% (○) ・教職員向け人権への取組み 79.2% (◎) (3) ア・教育相談満足度（生徒）78.6% [(○) ・教育相談体制満足度（保護者）78.0% (○) ・カウンセリングマインド（教職員）93.7% (◎) イ・学校生活満足度（生徒）90.8% [92.9%] (○) 今年度から教育相談支援委員会を発足させ、SSW も配置していただき、生徒支援体制を充実させた。生徒情報を集約し、SC と連携しながら教育相談・支援につなげた。また、ヤングケアラー調査にもとづいて実態把握に努め、学年・担任と SSW とが連携し支援に当たった。
3 学校改革に向けての体制づくり	(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。	(1) ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。加えて、地震・台風等の自然災害、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。	(1) ア・生徒向け学校自己診断結果の「いじめへの対応」85%以上維持 [90.9%] ・教職員向け学校自己診断結果の危機管理 80%以上[81.4%] ・年2回の防災訓練実施 [2回] ・生徒の健康・安全予防に関する職員研修を年3回実施する。[3回]	(1) ア・「いじめへの対応」（生徒）89.9% ・「いじめへの対応」（教職員）93.8% (◎)、SC、SSW との連携、担任会・教育相談委員会の連携により様々な対応を迅速に行っている。 ・危機管理（教職員）73.4% (△) ・地震・火災を想定した年2回の防災訓練を実施 (○) [2回] ・生徒の健康・安全予防に関する職員研修を3回実施 (○)

府立狭山高等学校

	(2) 学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、小中学校、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。	イ コロナ禍での教職員の業務の増加をふまえ、さらなる「働き方改革」を推進し、校務の精査と教職員の負担軽減、職務の平準化を図る。超過勤務の削減及び各種休暇の計画的取得を推進する。 (2) ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。 イ 「文化部フェスタ」「狭山カップ」等の実施により地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し学校と地域の交流を深める。	イ・教職員向け学校自己診断結果の勤務の充実度85%以上 [95.3%] (2) ア 本校の授業見学週間や地元中学校の公開授業での交流を実施。 イ 「文化部フェスタ」の実施やクラブ交流として「狭山カップ」を実施。	イ・勤務の充実度（教職員）90.2%（○） (2) ア 大阪狭山市との包括連携協定を締結し、地域連携の取り組みが復活した。多くのクラブが参加し、本校の魅力発信につながっている。（○） イ 文化部フェスタを3月に実施予定。男子バスケットボール部が狭山カップを実施。（○）
--	--	---	---	--